

平成30年7月18日

平成30年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原情報デザインアート専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原情報デザインアート専門学校、学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

平成30年7月18日

2. 学校関係者評価委員

長谷川 徹 氏 (株式会社 オーティエス 取締役営業本部長)

山本 利彦 氏 (株式会社 ディープラス 代表取締役)

八尾 一廣 氏 (株式会社 MC企画 管理部開発課主任)

(事務局)

田中 克実 (大原学園大原情報デザインアート専門学校 校長)

川上 浩司 (大原学園大原情報デザインアート専門学校 副校長)

藤川 宏明 (大原学園大原情報デザインアート専門学校 外語・IT・スポーツ・医療教務部部長)

山本 剛 (大原学園大原簿記法律専門学校難波校 法律教務部次長)

川上 譲司 (大原学園大原情報デザインアート専門学校外語・IT・スポーツ・医療教務部課長補佐)

川畑 増知 (大原学園大原情報デザインアート専門学校外語・IT・スポーツ・医療教務部課長補佐)

一角 健 (大原学園大原簿記法律専門学校難波校 法律教務部課長補佐)

自己点検・評価の概要

大原情報デザインアート専門学校の平成 29 年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は意思決定システムの下、円滑に行われている。また、教育理念に従って運営方針を定め、事業計画に基づいた人材育成が行えている。

昨年度は重点課題を「実学教育と人格の陶冶をテーマとした就職教育の充実」「資格取得率の向上と実践的な知識習得」「学生の地域活動を通じた社会性の向上」の 3 点を中心に改善を図っている。就職実績は、全国内定率が 99.4%、と高い数値を維持している。教育課程編成委員の提言により、各分野ともに実学教育と人格の陶冶についてブラッシュアップを図り、専門知識を有する心豊かな人材が輩出できたものと考えている。

I T 系の資格実績は、おおよその試験で専門学校生合格率の 2 倍以上の数値を維持している。しかし、応用情報技術者試験の初回受験については、我々にとっても学生にとっても満足のいく結果に至らず現在、再受験に向けて指導を継続している。

実学教育としても企業と連携して評価できる体制を構築して、固定化した知識に囚われず実践教育がなされている。

なお、学校運営に関わる予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

重点目標 1

実学教育と人格の陶冶をテーマとした就職教育の充実

<現状・達成指標>

内定率は高い数値を維持している。個人の資質や適性、能力、属性などを十分に考慮し、適した就職指導を施し、また、内定後の実態調査を行い、調査結果を精査の上、更なる満足度の向上を図る。

<具体的方策>

専門知識の習得や人格の陶冶と同じレベルで就職教育に力を入れている。昨今、学生の社会常識や一般教養が低下傾向にあることから、入学直後からマナーや一般教養などの指導を行っている。

また、PCP 教育では入社後 2～3 年の人材を想定し、社会性と即戦力となる知識・技術を育成していく。

実学教育として企業との教育連携により、実践的授業や講演などの実施および成果物の評価を受ける場面を積極的に設ける。

<学校関係者の評価・提言>

- ①毎年、多くの大原卒業生が社会で活躍している。今後も社会に巣立つ大原生に期待している。
- ②実学教育と人格の陶冶について、入学直後の段階から教育プログラムに組み込み、学生の社会常識・一般教養の低下に対応している点は評価できる。自立を目的とした教育を更に充実させ、社会に貢献できる人材育成教育を行って欲しい。
- ③本人の長所、特性を理解させ、それを振り返る機会を提供した上で、資格取得や進路を選択することで、即戦力として活躍できる人材を輩出して欲しい。
- ④実学教育について、改めて、実務に基づいた教育内容を点検し、ブラッシュアップして欲しい。

重点目標 2

資格取得率の向上と実践的な知識習得

＜現状・達成指標＞

資格実績は安定して高合格率が維持できている。社会のニーズや市場の変化に伴いITトレンドが目まぐるしく移り変わり新技術も次々と発表されている。教員は常に最新の情報にアンテナを張り、高い指導力、講義力をもって合格実績の更なる向上に繋げなければならない。

また、実践的な教育として制作物の評価をもらいレベルアップを図る。

＜具体的方策＞

企業等と連携した教員研修を通じて最新の技術や市場動向などの変化により生じる問題点や課題を把握し、必要なスキルを理解のうえ指導にあたる。

各種検定試験の情報収集、教材およびカリキュラムの改定ならびに指導方法の研究を継続的に行う。企業の方を招聘して発表会の開催。

＜学校関係者の評価・提言＞

①国家試験等の学習を通じて普遍的かつ体系的な知識の習得に励むことに加え、実社会で必要な知識を習得するカリキュラムを策定して欲しい。

②資格取得のみならず、実践的な技能を身に付けることができる教育を継続実施して欲しい。

③社会環境は、めまぐるしく変化している。その変化に対応できるよう教員の指導力向上を更に進めて欲しい。

④企業からの評価を受けることは実践教育として有意義なので、引き続き継続して欲しい。

重点目標3

学生の地域貢献を通じた社会性の向上

＜現状・達成指標＞

学校所在地自治体等、地域活動への参加により、近隣の方々に配慮した行動を身に付ける。また、ボランティア活動を推奨し、積極的に参加させる。

＜具体的方策＞

継続して近隣清掃を実施し、今後も、地域活動、ボランティア活動を通して学生の社会性の向上を図る。

＜学校関係者の評価・提言＞

①学校と関係する協会を通じた地域活動、ボランティア活動にも積極的に参加することで、社会常識を身に付ける場として有効利用して欲しい。

②近隣住民に配慮した行動、地域美化を意識した行動ができるよう引き続き、人間力の指導を継続して欲しい。

学校評価全体に対する評価

自己評価結果については、適正であると評価できる。

大原情報デザインアート専門学校の教育成果や学生指導、学校運営の取組みに等ついて、企業の視点から検証を行った。自己評価結果は妥当であると評価できる。現状として、学生、保護者はもちろんのこと、学生を採用する企業でも大原情報デザインアート専門学校では、良い教育を提供できていると思われる。

社会の変化に対応した教育を提供すること、実学教育・人格育成教育を提供すること、専門性が高く社会で即戦力となる人材育成を担うことには変わりはないが、現状に満足することなく、社会から

専門学校に求められる知識・技能教育について、常により良い教育が出来るよう常にブラッシュアップを図って欲しい。

今年度、重点課題を3点に絞り込んで改善活動に取り組んでいる点は良いと思うが、学校運営の事情から現時点で取組みが行なわれていない項目がある。これらについて、将来的に取り組みを検討して欲しい。

学校関係者委員会総括

学生の「実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実」を教育テーマに掲げて、教職員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。多くの大原卒業生が実社会で活躍していることは、社会的貢献の意味で非常に大きな役割を果たしている。

各学科の修業年限の中で、社会で即戦力となる知識技能や社会性を向上させる教育を提供していると思われる。また、学生生活においては、様々な場面で学生とコミュニケーションを図り、学生の長所や特性を踏まえた上での指導が、素晴らしい教育成果を上げている原点であろうと推察される。学習相談のみならず、日々の生活における悩みなども教員・保護者と共有解決しながら、学生が成長していく姿が想像できる。

今後も学生の更なる社会性の低下が予想されるが、「実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実」を永続的に実現するには、社会の変化に対応した教育プログラムの開発・改訂・提供を常に行うことが重要と考えられるため、重点課題の改善に向けた取り組みの中で反映させて欲しい。今後も学校関係者一同、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、大原情報デザイン専門学校が社会の信頼を益々得られるようにサポートしていきたいと思う。